

出前演奏会5カ所で

全公演会場決まる

トリーチ（出前演奏会）会場は、中泊町の中里中学校など5カ所が選ばれた。

【特集21面】

アウトリーチは10月31日に中里中、11月1日に八戸高等支援学校（八戸市）と特別養護老人ホーム「八甲荘」（十和田市）、2日にサンロード青森（青森市）と五所川原高校（五所川原市）で行う。唯一無料で一般観覧できるサンロード青森公演は午前11時から。

出演者は音楽祭芸術総監督で指揮者の沖澤のどかさ（青森市出身）、音楽主幹でソプラノ歌手の隠岐彩夏さん（五所川原市出身）ら8人で、昨年と同じメンバーが訪れる。

11月3日は青森公立大学（青森市）で室内楽公演、翌4日は県立美術館（同）で室内楽特別公演を開催。

5日は東奥日報新町ビル（同）で弦楽合奏団公演、6日は弘前市民会館でオーケストラコンサートを開く。7日はリンクステーションホール青森（青森市）でファミリーコンサート。最終日の8日は同会場でオーケストラコンサートを行いフィナーレとなる。チケットなどの詳細は後日、公式ホームページなどで発表する。（秋村有香）



青い海と
森の
音楽祭

10月31日～11月8日に県内各地で開く「青い海と森の音楽祭2026」（東奥日報社などがつくる実行委員会主催）の全公演会場が29日までに決まった。今回初めて公募で選定したアウ

青い海と森の音楽祭2026 主な日程

♪アウトリーチ（出前演奏会）

- 10月31日(土) 中里中学校(中泊)
- 11月1日(日) 八戸高等支援学校(八戸)
特別養護老人ホーム八甲荘(十和田)
- 2日(月) サンロード青森(青森)
五所川原高校(五所川原)

※サンロード青森のみ一般観覧可能。午前11時開演。

♪室内楽公演

- 3日(火・祝) 青森公立大学交流会館講堂(青森)
午後2時

♪室内楽特別公演

- 4日(水) 県立美術館アレコホール(青森)
午後6時半

♪弦楽合奏団公演

- 5日(木) 東奥日報新町ビル
New'sホール(青森)
午後6時半

♪オーケストラコンサート

- 6日(金) 弘前市民会館(弘前)
午後6時半

♪ファミリーコンサート

- 7日(土) リンクステーションホール(青森)
午後3時

♪オーケストラコンサート

- 8日(日) リンクステーションホール(青森)
午後2時



五所川原高校吹奏楽部の生徒たち

青い海と森の音楽祭のアウトリーチ会場に選ばれた五所川原市の五所川原高校（杉森晋校長）は、音楽主幹を務めるソプラノ歌手・隠岐彩夏さんの母校。国内外で活躍する先輩の「凱旋」公演が決まり、後輩たちは「プロの演奏、隠岐さんの歌声を目の前で聴けるのが楽しみ」と期待を寄せている。

「曲のイメージや音に対する考え方、感じ方などを知りたい」と話すのは同校吹奏楽部部長の中江育美さん（3年）。プロオーケストラの演奏やミュージカルの鑑賞が好きで、今回の機会も喜んでいる。「歌がうまくないと楽器もうまく吹けないといわれている。隠岐さんの歌声から

五所川原高校



青い海と
ホリの
音楽祭

10/31-11/8

隠岐さんの「凱旋」歓迎

「学びたい」と話した。部員の田中真裕さん（2年）は、小学生のときに山形交響楽団の青森公演を聴いて感動し、吹奏楽部に入った。プロの演奏に触れて音楽を始めた一人で「近い距離で聴けるなんて人生で一回あるかないか。（芸術総監督）沖澤のどかさんの指揮を見られるのも楽しみ」と笑顔を見せた。

アウトリーチに応募したのは、クラシック好きの川口智教諭（64）。自身も魅了された隠岐さんの歌声を生徒にも聴かせたいと以前から思っていた。昨年、沖澤さんの母校である青森東高校（青森市）でアウトリーチが行われたことも応募の決め手になったといい、「やった」という気持ち。五所川原でプロの演奏を聴けることはなかなかないのでうれし

い」と話した。（秋村有香）

「一步踏み出して」

ソプラノ歌手・隠岐さん

母校・五所川原高で講演

五所川原

五所川原市出身でソプラノ歌手の隠岐彩夏さんがこのほど、同市の母校・五所川原高校（杉森晋校長）で講演した。「音楽にできること」と題して夢をかなえ

るための歩みや思いを語り、「一步踏み出せば次の景色が見える」と後輩たちにエールを送った。

隠岐さんは同校55回生で2003年に卒業。岩手大進学後に声楽の道へ進み、東京芸術大学大学院や米ニューヨーク留学などで腕を磨いた。日本音楽コンクール第1位のほか、県文化賞や東奥文化選奨などを受賞している。

講演で隠岐さんは、元々はピアノで音楽の道に進んだことを紹介した。高校時代、音楽家を志す生徒は珍しく「孤独を感じた」時期もあったという。最大の転

機は大学4年でピアノから声楽に転向したことだとし、各地の演奏会に参加する中でソリストに憧れ、恩師の勧めも後押ししたと振り返った。

活動する中で資金面の苦労のほか結婚・出産という女性ならではの選択も経験。コロナ禍では「音楽は本当に必要なか」と自問したが「人間らしくいられるという意味が必要」と歌を届け続けた。11月には青い海と森の音楽祭のアウトリーチ（出前演奏会）で再び母校を訪れる予定で「会えるのを楽しみにしています」と締めくくった。

講演を聞いた生徒会長の其田廉介さんは「（隠岐さんのように）自分のやりたいことをやっていきたい」と話した。（秋村有香）



後輩たちを前に講演する隠岐さん